

中日両国の文化について

Concerning Culture in China and Japan

高橋弥守彦

TAKAHASHI Yasuhiko

内容提要

中国有“天地”“男女”等“对称文化”，而日本有「三人寄れば文殊の知恵」「七人の侍」等使用奇数的“不对称文化”。汉语的基本句型为 SPO，日语为 SOP。因此，二者的关系按理说应该还是比较简单的。然而，受中国“对称文化”的影响，汉语中连述句和兼语句等的日译问题绝非简单，需要推敲。比如以下连述句。

但突然有一天，她接到一封电报。说他出差在外，不幸遇车祸。（『人民』96-11-85）

ある日、突然彼女宛に一通の電報が届いた。彼が出張先で交通事故に遭ったというのだ。

（同上、96-11-84）

地道的日语并不是将以上的“出差在外”这一短语译成 [出張中の外出先で]，而是要顺从日本的不对称文化翻译成 [出張先で]。可以说将汉语的对称文化的句子译成日语时，往往是不对称的。这一点不容忽视。

キーワード：SPO 構造 SOP 構造 対の文化 非対の文化 リズム

目次

1. はじめに
2. 中日両国の文化
3. おわりに

1. はじめに

中国語の基本文型は SPO 構造“这是什么？”（『人民』93-11-111）であり、日本語は SOP 構造 [これはなにかな？]（同上、93-11-110）である。この基本文型を核にして、中国語はいろいろな文や分文構造“坐在教室里，我神情恍惚，眼前老是晃动着娘憔悴的身影。”（『人民』97-5-87）ができ、訳文 [教室に座っているとボーッとして、いつも目の前におふくろの疲れた姿が浮かんでくる。]（同上、97-5-86）も擬態語 [ボーッ] を使うなどして、随分工夫が凝らされている。この基本文型から中国語の文が作られているのであれば、中日両言語の対応関係は比較的簡単なのだろうが、実際の文はそれだけではない。以下の文によって検討してみよう。

（1）一路上多多沉默寡言，他知道自己做错了事。（『人民』89-1-99）

歩きながら、多多はだまっただまだ。自分が悪いことをしたのを知っていたからだ。（同上）

(2) 后来老孙头给自己派了个活，每天早晨四点钟起床，把这条二百多米长的小胡同打扫得干干净净，然后回到院里，再把院子扫净。（『人民』88-5-90）

そのうち、孫老人はやることを自分で決めた。毎朝四時に起き、二百メートルの路地をきれいに掃いたら、庭に戻って中庭を清掃する。（同上）

(3) 尽管还没出芽，没长叶，没开花。但一切都会有有的。（『人民』89-3-100~101）
まだ芽も、葉っぱも出ていないし、花も咲いていないけれど。それでもみんな出てくるはずだ。（同上、89-3-101）

(4) 苗苗的爸爸和妈妈，你瞪着我，我瞪着你，愣住了……（『人民』88-2-97）
パパとママは目を丸くして顔を見合せ、ぽかんとしている……（同上）

(5) 他感到儿子匆匆搁筷，找衣服，又跨进卫生间。他感到心中自信像空气注入瘪汽球一样迅速饱满地回归。（『人民』88-8-99）

父親はそこそこに箸を置き（※くと）、洋服を取りに行く息子を気配で感じた。シャワーを浴びに行ったようだ。へこんだ気球が空気を入れられて膨らんでいくように、彼は自信が胸一杯にひろがっていくのを感じた。（同上）

例(1)の原文の四字語“沉默寡言”は、動詞“沉默”[沈黙する、押し黙る]と形用詞“寡言”[口数が少ない、無口である]の類義語の重複である。訳文は[だまったままだ]と二つの類義語を使っていない。例(2)の“这条二百多米长”は、具体的な長さ“这条二百多米”と長さの分量“长”であり、やはり類義語の重複と言えるが、[二百メートル]と訳されている。例(3)の“没出芽，没长叶，没开花”は副詞“没”の重複であり、[芽も、葉っぱも出ていないし、花も咲いていない]と訳されている。言語環境により“没”が訳され、逐語訳的に、三つの“没”がすべて訳されているわけではない。例(4)の“你瞪着我”“我瞪着你”は対比表現であり、[目を丸くして顔を見合せ]と訳されている。訳文は対比表現で訳されていない。例(5)の文頭の二つの“他感到”は、[父親は……感じた]と[彼は……感じた]と訳されている。本稿では、単語レベルで対応関係にないこれらの原文と訳文とが、何を根拠にして翻訳として成立するのかに焦点を当て分析する。

2. 中日両国の文化

現実を基本として、文はその地域に適した文化[人は右、車は左]（日本の交通規則）を作る。文には地域性のあるものもあれば、ないものもある。文化も文に影響を与える。文化は文にいったいどのような影響を与えるのだろうか。

中国には「対の文化」があり、日本には「非対の文化」¹⁾がある。「対」は円満や協調などを表すので、中国人から好まれている。中国語は単語も単独で用いるより、対にして用いると意味が分かり易くリズムもよい。その典型が「四字語」である。「非対」は発展を表すので日本人から好まれている。その典型は「575の俳句」である。

¹⁾ 高橋弥守彦（2017-p 42~54）に「対の文化」と「非対の文化」の詳細あり。

2.1. 類義する語句の組み合わせ

中国語の文中にはしばしば類義語の重複がみられる。要旨中の“说他出差在外，不幸遇车祸”[彼が出張先で交通事故に遭ったというのだ]の“出差在外”は、[出張中の外出先で]と訳さず、[出張先で]と訳している。例(1)の“沉默寡言”も[沈黙して口数が少ない]と訳さず、[だまったままだ]と訳している。一般的に言えば、中国語はこのように類義語を重複させているが、日本語は類義語を一つに統一している。中日両言語は、なぜこのような特徴ある表現をしているのであろうか。例文を見て検討してみよう。

- (6) 舅妈对姥姥极好，照顾得周到细致挑不出半点毛病。(『人民』91-1-96)

おばは祖母にとっても親切で、少しの欠点もないくらい、キメ細かに面倒見てくれる。(同上)

- (7) 那次之后，姥姥便再没有提她的绿玉手镯，舅妈伺候姥姥一如从前一样体贴细致，只是姥姥的神态中少了先前那种受之泰然的成份。(『人民』91-1-97)

それからは、祖母は二度と緑玉の腕輪のことを口にしなかった。おばも(※は)前と同じように、やさしく、かゆいところまで手の届くような世話をしてくれた。ただ、祖母の表情を見ていると、前にあった「モノがあるからよくしてくれているんだという安心感」が、いくらかでもなくなっていたようだった。(同上)

- (8) 上班到公司，发现科里的小郭有点闷闷不乐。(『人民』96-4-87)

会社に出ると、同僚の郭君が浮かない顔をしていた。(同上、96-4-86)

- (9) 有次，小洁出差不在家，阿浓邀了几个朋友来家小聚，似乎意在弥补什么。(『人民』94-1-93)

ある日、小潔が出張で家をあけた。阿濃は、なにがしかの埋め合わせにとばかりに、友達を数人よんでささやかな会をもよおした。(同上、94-1-92)

例(6)の“周到细致”は形容詞“周到”[行き届いている]と形容詞“细致”[きめ細かい、緻密である]の組み合わせであり、[キメ細かに]と訳されている。例(7)の“体贴细致”は動詞“体贴”[思いやる、気を配る]と形容詞“细致”の組み合わせであり、[やさしく、かゆいところまで手の届くような]と訳されている。例(6)(7)の四字語を見る限り、品詞によってくみあわせるのではなく、類義語によって組み合わせている。これによって、意味が分かり易くりズミカルになっている。

例(8)の“上班到公司”は動詞“上班”[出勤する]と連語“到公司”[会社に到着する]の組み合わせであり、[会社に出ると]と訳されている。例(9)の“出差不在家”は動詞“出差”[出張する]と連語“不在家”[家にいない]の組み合わせであり、[出張で家をあけた]と訳されている。例(8)と(9)は単語と連語のくみあわせであり、文法単位によって組み合わせているのではなく、やはり類義する意味によって組み合わせている。また、訳出法は訳文から見ると、統一される場合“出差在外”[出張先で]とそうではない場合“出差不在家”[出張で家をあけた]とがある。これらをどう訳すかは、前後の言語環境によって、訳し分けなければならない。

上記下線部の組み合わせは品詞や単語レベルの組み合わせであれば、分かり易く、それにこしたことはないが、品詞や単語などの文法レベルの組み合わせだけではなく、類義する意味によって組み合わせている。これらの組み合わせを見ると、中国語は意味が最重要視されると言えそうである。

例(2)の“把这条二百多米长的小胡同打扫得干干净净”の“这条二百多米长”も、具体的な長さ“这条二百多米”と長さの分量“长”との組み合わせであり、やはり類義語の重複と言える。これは[二百メートル]と訳されている。このほかの具体的な数量を用いている文も、次で見てみよう。

(10) 大约十五六平方米的屋子里, 摆一张双人床, 一张单人床。一张占地不大的学生桌, 桌上放着元元的课本和作业。(『人民』97-2-87)

十五、六平方メートルはあろうかという家の中は、ダブルベッドとシングルベッドが一つずつ、それに小型の勉強机がところせましと置かれ、机の上には息子の元元の教科書とノートが積まれている。(同上、97-2-87)

例(10)の“大约十五六平方米”[十五、六平方メートルはあろうかという]は、[大体十五平方メートルはあろうかという]ともいえる。日本語はどちらかの表現になる。しかし、中国語のように、それらをまとめて[大体十五、六平方メートルはあろうかという]とはいえない。よく似ているが、ここには重複を嫌う日本語の特徴があり、中日両言語における表現上の違いがある。

2.2. 二単語の分解による組み合わせ

例(1)から(10)までは、類義する二つの語句の組み合わせだったが、以下の四字語は、二つの単語や類似の語句を分解してからの組み合わせである。語句の組み合わせも一つではないようである。

(11) 一个身材瘦削的男青年正在招牌下伫立着往街道东张西望。(『人民』89-10-101)
やせた若い男がその下にじっと立って通りをあちこち見ている。(同上)

(12) 爹当村干部, 整日东奔西跑为公家忙碌得顾及不了家庭, 弟妹又小, 一家的重担都搁在娘肩上。(『人民』97-5-87)

親父は村の幹部で家は空けっぱなし。弟妹が小さいから一家の重荷が全部おふくろの肩に掛かっているのだ。(同上、97-5-86)

(13) 这可是名贵的花种呢, 开了花要上百块一盆, 请三托四好不容易弄到的, 糟蹋不得。(『人民』89-3-100)

これは名花のタネなん、花がひらけば一鉢百円ほどの値打ちがある。それに、あちこち頼んでも、めったに手に入るものではないから、一粒たりともムダにはできなかったのだ。(同上)

例(11)の“东张西望”[あちこち見ている]は名詞“东西”[東西]と動詞“张望”[遠くを眺める、あたりを見まわす]、例(12)の“东奔西跑”は名詞“东西”[東西]と動詞“奔跑”[奔走する、走りまわる]であるが、これらは単語を分解してからの組み合わせである。例(13)

の“请三托四”は、例（11）（12）とは若干異なるが、動詞“请托”〔頼み込む、請託する〕と回数“三四”とを分解してからの組み合わせである。

- （14）于是父亲又穿得像模像样，每天按时上下班了。（『人民』94-10-97）

こうして父親は、再び服装をととのえ、毎日時間通りに行き帰りするようになった。（同上、94-10-96）

- （15）不过，咱先说点儿眼前的事，别没完没了的，趁早结婚吧。（『人民』94-10-97）
だが、まずは目先の話をしよう。ごちゃごちゃ言わずに、早くカレと結婚することだ。（同上）

例（14）の“像模像样”〔ちゃんとしている、まともである〕と例（15）の“没完没了”〔果てしがない、きりがない〕は、構造は同じで、四字語の中に、それぞれ単語“模様、完了”があり、どちらも成語としてすでに使われている。

2.3. 連語のくみあわせ

四字語は上記に見られるように、単語のくみあわせが一般的だが、以下のような類義する連語のくみあわせによっても作られる。

- （16）她变得心灰意冷。（『人民』88-9-97）

彼女はすっかり気落ちしてしまった。（同上）

- （17）我心灰意疏，收拾了笔墨纸砚，打算与十年寒窗告别。娘说：“再试一年吧。”（『人民』97-5-87）

すっかり落ち込んだ僕は、勉強道具を片付けて、十年以上にわたった学校生活におさらばしようと思ったのだが、おふくろが「もう一年頑張れ」という。（同上、97-5-86）

- （18）一声撕心裂肺的呼唤，“琴——”（『人民』88-9-98）

「琴——」胸も張りさけるばかりの叫びがあがった。（同上）

例（16）の“心灰意冷”〔すっかり気落ちする〕と例（17）の“心灰意疏”〔すっかり落ち込む〕は、それぞれ名詞と形容詞との組み合わせ“心灰”“意冷”と“心灰”“意疏”である。例（18）の“撕心裂肺”〔胸も張りさけるばかり、胸が引き裂かれる思いがする〕は、どちらも動詞と名詞との組み合わせ“撕心”“裂肺”であるが、すでに成語としても使われている。四字語にすると意味が分かり易くなるばかりか、リズムもよくなる。

2.4. 構造的重複（実詞の繰り返し）

上掲のように、単語や連語を「対の文化」の影響を受ける四字語“沉默寡言”（例1）として使うと、意味が分かり易く、リズムがよくなる。四字語は、そのまま日本語に訳すと、冗漫になる嫌い〔沈黙して口数が数ない〕があるが、非対の文化による訳〔だまったままだ〕にすると、簡潔な日本語となる。

以下は構造的重複である。構造的重複（語句の繰り返し）は2パターンに大別できる。一つは二つの文や分文に用いるタイプ、もう一つは一つの文や分文内部に用いるタイプである。これらはいずれも類義語の重複と同様、文意を分かり易く、リズムをよくしている。

- (19) 在一个黑色的木框里镶嵌着一张三寸黑白照片。照片是新的。(『人民』88-8-98~99)

黒い木枠に入った小さい白黒の写真があった。(同上、88-8-98)

- (20) 梁公是地区人大代表。人大代表是要开会的。(『人民』91-5-96)

彼は地区人民代表大会の代表である。代表は大会に参加する。(同上)

- (21) 他决定立即回去澄清事实。澄清事实的最有效的办法是再展示一件货真价实的作品, 于是梁公选了一件真正的得意之作, 匆匆忙忙赶回宾馆。(『人民』91-5-97)

彼はいますぐ戻って、事実をはっきりさせることにした。その最も有効な方法は、ほんものの作品をもう一度見せることだ。そこで梁公は、正真正銘の自慢の作を選び、大急ぎでホテルに戻っていった。(同上)

- (22) 照片上的人的微笑很健康很慈祥。照片上的人 是一位白髮蒼蒼的老爺爺。(『人民』88-8-99)

その人の微笑は健康で慈愛に満ちていた。写真の人は白髪のご老人だった。(同上、88-8-99)

- (23) 老二、老三也只是一刹那的惊愕。三双老手一同抹去两张脸上的泪, 三双老手一同把两个跪着的人掀下了海, 再同喊一声: “回去吧——鸽子。你们……”(『人民』93-4-111)

弟二人は一瞬はっとしたが、三人の老人の手はいっしょに動いて、若い二人の涙を拭ってやり、ひざまずいている二人を海に落とした。それからまた声を合わせて叫んだ。「帰って行きな——鸽子。お前たち……」(同上、93-4-110~111)

- (24) 娘锄地间苗, 娘刷锅做饭, 她缝衣补被, 娘破冰浣洗……。 (『人民』97-5-87)

畑仕事、炊事、針仕事、氷を割っての洗濯——(同上、97-5-86)

構造的重複は二つの文や分文に挙げる前者(例19, 22)が一番多いが、二つ以上の文や分文中に挙げる場合(例24)もある。前者の例として、例(19)から例(30)までの12例が挙げられる。このうち例(19)から(24)までは体言性の語句であり、例(25)から例(30)までは用言性の語句である。例(31)は名詞“一辈子”、例(32)は副詞“有点儿”が状況語として用いられている。

上掲の例(19)(20)(21)は、二つの文の文末と文頭に同一の単語“照片”または連語“人大代表”“澄清事实”を用い、例(22)(23)は二つの文と分文の文頭“照片上的人”“三双老手”にそれぞれ用いている。例(24)は五文字からなる四つの分文の文頭に“娘”を用い、あれこれやらなければならない仕事がたくさんある“娘”を強調するとともに、文のリズムをよくしている。

- (25) 娘看见了, 爹和弟妹也看见了。(『人民』97-5-87)

みんなが目をみはった。(同上)

- (26) 于是她满脸泪水地向他点头, 使劲儿点头。(『人民』96-11-85)

彼女は溢れる涙を拭いてもせずに必死にうなずいて見せた。(同上、96-11-84)

- (27) 亲爱的爸爸妈妈，我们回来了！亲爱的孩子，爸爸妈妈回来了！（『人民』15-1-78）

お父さん、お母さん、僕たちは帰ってきたよ。我が愛しき子どもたちよ、父さん、母さんが帰ってきたよ。（同上）

- (28) 除夕之夜，大红的对联贴起来，喜庆的年华贴起来。（『人民』15-1-78）

大晦日の夜には、真っ赤な対聯や、めでたい年画が貼られる。（同上）

- (29) 但他太爱小洁，不愿让小洁扫兴，不愿破坏那种温馨甜蜜的新婚气氛。（『人民』94-1-93）

だが彼は小潔をたいそう愛していたので、彼女を失望させたくなかった。このふんわかと蜜のような新婚気分を、壊したくなかった。（同上、94-1-92）

- (30) 父亲老了，他的一切都老了。曾和父亲这一辈很协调的背景已走向薄暮黄昏。（『人民』88-8-100）

めっきり老い込んだ父親、すべてが寄る年波に洗われてしまった。彼らの世代の黄昏を感じさせる。（同上）

例（25）から（30）までは、下線部の引いてある二つの分文中に、いずれも述語“看见了”“回来了”“贴起来”“点头”“不愿”“老了”として動詞“看见、点头、不愿”や動詞連語“回来、贴起来”および形容詞“老”などが用いられている。次の二例は状況語の重複である。

- (31) 为你一辈子正直无私，一辈子对信仰的忠诚。你尽力了。（『人民』88-8-100～101）

生涯通して、公明正大、マルクス主義信奉と忠誠を守ろうって頑張ってきたからさ。（同上、88-8-101）

- (32) 她自己呢？依然是单身一人。28 岁了，车间里的姑娘都说她有点儿怪，有点儿冷。（『人民』96-11-85）

だが彼女自身はというと、依然として独身で、もう二十八歳だった。職場の小娘たちは、陰で彼女のことをどこか変わった、冷たい女だと噂した。（同上、96-11-84）

例（31）（32）は二つの分文中に名詞“一辈子”と副詞“有点儿”とが状況語として用いられている。筆者の調査によれば、名詞や副詞が重複する語句で状況語に用いられる場合はきわめて少ない。以下の3例は名詞連語のカザリやカザラレが重複する場合である。

- (33) 沁沁有了一盆属于自己的花，亲手种的花！（『人民』89-3-100）

自分の花を手にしたシンシン。それも、自分の手で植えた花なのだ。（同上、89-3-101）

- (34) 满足的笑，苍老的笑，豪迈的笑！——风暴淹不住，雷霆盖不住，海浪埋不住！（『人民』93-4-111）

老いた三人の、満足しきった笑い、枯れた笑い、豪邁な笑い！それは暴風にも、雷にも、怒涛にもおさえられはしなかった！（同上）

- (35) 史工程师比当年自己考取大学要高兴得多，满脸的阳光，满脸的春色。(『人民』97-10-75)

エンジニアの史さんは、自分が大学に受かったときよりも嬉しかった。その喜びようはまさに喜色满面、春色满面といってよかろう。(同上、97-10-74)

語句の重複を一つの文や分文内部に用いるタイプとして、上掲の3例が挙げられる。例(33)(34)は名詞連語のカザラレ(中心語)として、それぞれ名詞“花”と動詞“笑”²⁾を重複させている。例(35)は名詞連語のカザリ(限定語)として語句“满脸的”を重複させている。これによって、文意が分かり易くリズムがよくなっている。次の文のように、二つの文や連語の文頭に用いられる場合もある。これらはいずれも文意を分かり易くリズムをよくする働きをしている。

- (36) 他感到儿子匆匆搁筷，找衣服，又跨进卫生间。他感到心中自信像空气注入瘪汽球一样迅速饱满地回归。(『人民』88-8-99)

父親はそこそこに箸を置き、洋服を取りに行く息子を気配で感じた。シャワーを浴びに行ったようだ。へこんだ気球が空気を入れられて膨らんでいくように、彼は自信が胸一杯にひろがっていくのを感じた。(同上)

- (37) 他放心不下嘱托给她的，是他那刚刚出世不久的儿子！还有那刚刚做了母亲的妻……(『人民』96-11-85)

彼が心配のあまり彼女に頼んだのは、生まれて間もない赤ん坊と、母親になったばかりの妻だったのだ……(同上)

例(36)(37)の語句の重複は、文中にさほど難しい語句はないが、二つの文に分けることにより、意味的な対比(例36は息子の行動と父親の気持ち、例37は赤ん坊と妻)を作り、文意を分かり易く、リズムをよくしている。

2.5. 構造的重複(虚詞の繰り返し)

虚詞を繰り返す構造的重複も、文意を分かり易くリズムをよくする機能がある。以下の実例がそれにあたる。虚詞には肯定的意味を含む単語と否定的意味を表す単語とがある。

- (38) 她又想不看，又忍不住偷偷地看。(『人民』89-6-100)

見るまいと思っても、ついついおさえ切れずに見てしまう。(同上)

- (39) 每一声车鸣，带来一串又一串欢快的笑声，涌动着又一阵暖暖的亲情！(『人民』15-1-78)

車の到着を告げる音と共に、歓喜の笑い声と暖かな肉親の情がひとつ、またひとつと湧き起こる。(同上)

²⁾ 名詞連語は「カザリ+“的”+カザラレ」構造で、カザラレには一般に名詞や名詞連語が用いられる。そのため名詞連語と言う。しかし、カザラレの位置に動詞や形容詞が来る場合もある。動詞や形容詞はカザラレの位置に用いられることにより、体言的な意味が加味される。これにより、名詞連語の機能が加味される。

- (40) 等朋友走后，阿浓又是扫又是拖，还用了吸尘器，折腾了好一阵，才把所有的痕迹清扫干净。(『人民』94-1-93)

彼らが帰ったあと、阿濃はほうきではき、モップで床をふき、掃除機も使った。何度も繰り返したおかげで、部屋はすっかりきれいになった。(同上、94-1-92~93)

- (41) 在一根头发丝上刻一首诗，且配画，且笔力道劲，且画境隽永。(『人民』91-5-96)

一本の髪の毛に詩を一首彫って、そこに絵を配す。しかも力強さが感じられ、画境には深い意味がある。(同上)

例(38)から(41)までの構造的重複に使われている虚詞“又…又…、又…又…还…、且…且…且…”は、肯定的意味を表す虚詞である。これらの虚詞を使うことにより、文構造が明確になり、文意が分かり易く、リズムがよくなる。たとえば、例(38)の“她又想不看，又忍不住偷偷地看”は虚詞“又…又…”³⁾を使うことにより、前後の分文内の意味関係「見るまいと思っても、ついついおさえ切れずに見てしまう」が明らかになっている。以下は否定の意味を含む虚詞が構造的重複に使われている場合である。

- (42) 尽管还没出芽，没长叶，没开花。但一切都会有的。(『人民』89-3-100~101)

まだ芽も、葉っぱも出ていないし、花も咲いていないけれど。それでもみんな出てくるはずだ。(同上、89-3-101)

- (43) 安安独自一人，没有家底，到了说媳妇的年龄，却没有人与他说合。(『人民』89-7-98)

安安はひとりぼっち、財産などはない、嫁の話が出る年齢になったが、誰も世話をしてくれない。(同上)

- (44) 父亲没有在这稍纵即逝的惊讶里看到别的什么。没有怜悯没有安慰也没有懊恼。(『人民』88-8-99)

でも、いましがた見せたいぶかしい表情は、もう消えていた。いまは何の表情もない。哀れみも思いやりも苦悩の色も。(同上)

- (45) 你大了不再崇拜父亲。你越来越沉默，你不再抱怨父亲呆板僵化，不再为各种政治问题与父亲争论不休，也不再说父亲刚愎自用。(『人民』88-8-99~100)

大きくなったら、父親を尊敬することなくなったし、一層黙り込むようになった。無愛想な、しかめっ面したわしにへソを曲げることもない。政談を戦わすこともない。親父は強情っ張りで、自信家だとも言わなくなった。(同上、88-8-100)

³⁾ “又…又…”は《汉语 800 虚词用法辞典》(2013—p.789~790) に矛盾する 2 項を表すとして、次の例文を含む 10 例が挙げられている。

他又想买，又觉得有点儿贵。／彼は買いたいのが、ちょっと高いと思う。(筆者訳)

(46) 像候鳥一样，在外的儿女都回到了家乡。无论路途远近，无论寒风细雨，更无论富贵与否。（『人民』15-1-78）

渡り鳥と同じように、外に住む子どもたちはみんなふるさとに戻ってくる。どれほど遠くにいようが、どれほど悪天候であろうが、ましてやお金のあるなしにかかわらず。（同上）

例（42）から（46）までの構造的重複に使われている虚詞“没…没…没…、没有…没有…、没有…没有…也没有…、不再…不再…也不再…、无论…无论…更无论…”は、否定的意味を含む虚詞である。これらの虚詞を使うことにより、複雑な文構造が明確になり、文意が分かり易く、リズムがよくなっている。

3. おわりに

中国には「対の文化」があり、日本には「非対の文化」がある。歌舞伎や能などの日本の伝統劇は中国の京劇や昆劇などの影響を強く受けている。これら中日両国の文化の違いは、見れば誰にでも分かる。原則として、中国の伝統劇は歌うが、日本の伝統劇は台詞だけで歌わないところに大きな違いがある。

中国語の基本文型は SPO 構造、日本語は SOP 構造である。これだけであれば、中日両言語に対応関係が認められるので、翻訳はさほど難しくはないであろうが、中国語には対の文化の影響を受けた単語“学习”や四字語“沉默寡言”などが相当数ある。文も連述文や兼語文などがある。これらは日本語の構造とはかなり違うので、日本語らしく訳すには高度なテクニックが必要である。

(47) 挑了个没有课的下午，大家一起骑车去市里的体育用品商店，这里的球衫式样可真不少，花色也多，可麻烦也跟着来了。（『人民』89-8-101）

午後に授業のない日を選んで、みなは自転車でいっしょに市内のスポーツ用品店へ行った。この店の品数の多いこと、色もとどり、却ってめんどうになってきた。（同上）

例（47）の“大家一起骑车去市里的体育用品商店”は「みなは自転車でいっしょに市内のスポーツ用品店へ行った」と訳されている。“一起骑车去市里的体育用品商店”を「みなは自転車に乗っていっしょに市内のスポーツ用品店に行った」（筆者訳）と訳していない。筆者訳「自転車に乗って……市内のスポーツ用品店に行った」は、対の文化の影響を受けた中国語の連動文にそって訳され、やや冗漫になっている。また、さほど長くない文に「に」を3回も使い歯切れが悪くなっている。連動文をそのまま訳さないことや助詞を重複して使わないことなどが日本語訳をする場合などに重要であろう。

対の文化を受けた中国語は、非対の文化の影響を受ける日本語に訳せばよいが、うまく訳せない場合もある。その場合は対の文化の影響を受けた日本語でもよいが、なるべく重複は避けるようにした方がいいだろう。

言語資料

1. 『人民中国』 ショートショート 人民中国雑誌社 1988～1997
2. 『人民中国』 楽らく対訳 人民中国雑誌社 2014～2017
3. 『人民中国』 ショートショート 人民中国雑誌社 2018～

参考文献

日本語文献

1. 荒川清秀 (2015) 『動詞を中心にした中国語文法論集』 白帝社
2. 鈴木康之 (2000) 『日本語学の常識』 海山文化研究所
3. ——— (2011) 『現代日本語の連語論』 日本語文法研究会
4. 朱徳熙著 杉村博文・木村英樹訳 (1995) 『文法講義』 白帝社
5. 高橋弥守彦 (2006) 『実用詳解中国語文法』 郁文堂
6. ——— (2017) 『中日対照言語学概論—その発想と表現—』 日本僑報社
7. ——— (2020) 『中日翻译学的基础与构思—从共生到共创』 外语教学与研究出版社
8. ——— (2023) 『日中中日翻訳必携実戦編V』 日本僑報社
9. 松村達夫 (1978) 『翻訳の論理 英語から日本語へ』 玉川大学出版部
10. 丸尾誠 (2014) 『現代中国語方向補語の研究』 白帝社
11. 李臨定著／宮田一郎訳 (1993) 『中国語文法概論』 光生館

中国語文献

1. 丁崇明 (2009) 《现代汉语语法教程》 北京大学出版社
2. 耿二岭 (2010) 《汉语语法》 北京语言大学出版社
3. 梁鸿雁 (2004) 《HSK 应试语法》 北京大学出版社
4. 卢福波 (2011) 《对外汉语教学实用语法》 北京语言大学出版社
5. 陆庆和 (2006) 《实用对外汉语教学语法》 北京大学出版社
6. 单宝顺 (2011) 《现代汉语处所宾语研究》 中社会科学出版社
7. 徐昌火 (2005) 《征服 HSK 汉语语法》 北京大学出版社
8. 杨德峰 (2004) 《汉语的结构和句子研究》 教育科学出版社